

岩国市の救急医療について

平成23年3月26日
藤本循環器科・内科
藤本俊文

(資料提供:岩国市消防本部、岩国医療センター)

救急車の配備

中央消防署 (予備1台)

南岩国分遣所

東出張所

南出張所

西消防署 (予備1台)

玖西出張所

玖北第1出張所

玖北第2出張所

3班が24時間交代

8署所 × 3 = 24隊





岩国消防の救急出動件数推移

岩国市では昭和37年に本格的に救急業務を開始。

昭和37年	231
昭和47年	1,201
昭和57年	3,598
平成 4年	4,535
平成14年	6,764
平成17年	7,597
平成21年	7,032
平成22年	7,413

22年署所ごとの件数

<u>中央消防署</u>	<u>2122</u>
南岩国分遣所	1055
東出張所	543
南出張所	610
<u>西消防署</u>	<u>1390</u>
玖西出張所	1094
玖北第1出張所	279
玖北第2出張所	320
計	7413

山口県

- 救急件数 2010年 60043(前年比95%)
- 現場到着時間 平均8.1分
- 病院収容所要時間 平均32.8分
- 救急車による急病搬送人数32675人中死亡1.7%
- 重症 9.8%、中等症44.6%、軽症43.9%

救急種別ごと搬送人員

	交通事故	一般	急病	その他
20年	766	968	3840	1133
21年	699	908	3970	1125
22年	747	1040	4001	1203

搬送者中高齡者割合

<u>平成20年</u>	6707	
高齡者	3838	57%
<u>平成21年</u>	6702	
高齡者	3994	59%
<u>平成22年</u>	6991	
高齡者	4239	60%

不要不急の救急要請や受診

全国的に救急件数が増加しています。

岩国医療センターは県東部で唯一3次(重篤・重症を受入れ治療する)の医療機関です。

1次・2次の患者さんが多数受信され、パンク状態です。

岩国市では軽症の患者さんの受診を減らせるよう、救急医療対策協議会を設立し取り組んでいます。

救急車の適正利用にご協力を

救急車の出動が増え、管轄の救急車が出動中のため、他の管轄から応援に来るといった事態が増えています。

これにより、現場到着、病院到着までの時間も延びています。

本当に救急車が必要な患者さんの命が救えない恐れがあります。

搬送者中軽症割合

20年	6707	
	2570	38%
21年	6702	
	2278	34%
22年	6991	
	2417	35%

全国・県との軽症率比較

	全国	県	岩国
20年	467万	56328	6707
	237万	24244	2570
	51%	43%	38%
21年	468万	55526	6702
	237万	23657	2278
	51%	43%	34%

岩国医療センター (22年4月～2月末)

	内科	その他	計
軽症	4223 (65%)	8382	12605 (77%)
中等症	932	846	1778
重症	1275	634	1909
死亡	60	11	71
計	6490	9873	16363

昨年の救急出動、最多546万件

- 2010年の全国の救急出動件数が546万3201件、搬送人数が497万9213人(ともに速報値)で、1963年の統計開始後、それぞれ**最高**だった07年(529万236件)、05年(495万5976人)を**更新**したと発表した。
- 「**高齢患者の増加**」(80・9%)が最も多く、昨夏の猛暑による「**熱中症患者の増加**」(54・3%)が続いた。特に、昨年7-9月の熱中症による搬送者は5万3843人と、前年の4倍に膨らんだ。ほかに「**緊急性が低い患者の増加**」(38・4%)が目立った。

バイスタンダーの処置は

救急現場で心臓や呼吸が停止した傷病者に、そばにいた人・見つけた人が何らかの処置をしていた件数。

21年 116人中 32人

22年 117人中 31人

(86人が65歳以上の方)

90以上 21人 80以上 31人

70以上 25人 65以上 9人

突然死は珍しくない

全国

交通事故死亡 約5,200人(平成20年)
突然死 約114,000人(平成20年)
1日約310人が突然心肺停止

岩国市

交通事故死亡 9人(平成20年)
突然死 95人(平成20年)
4日に1人が突然心肺停止

岩国地区の突然死の現状

(平成12年5月1日～18年4月30日)

計 442名

頻度 46.0人／10万人・年

平均年齢 71±18歳

性別 男性243名＞女性199名

突然死の起こった場所

自宅 80%

公共機関、仕事場など 20%

原因

73.5%が内因性＝心臓に原因

突然死の原因→約70%が心臓病

岩国地区 平成19年度

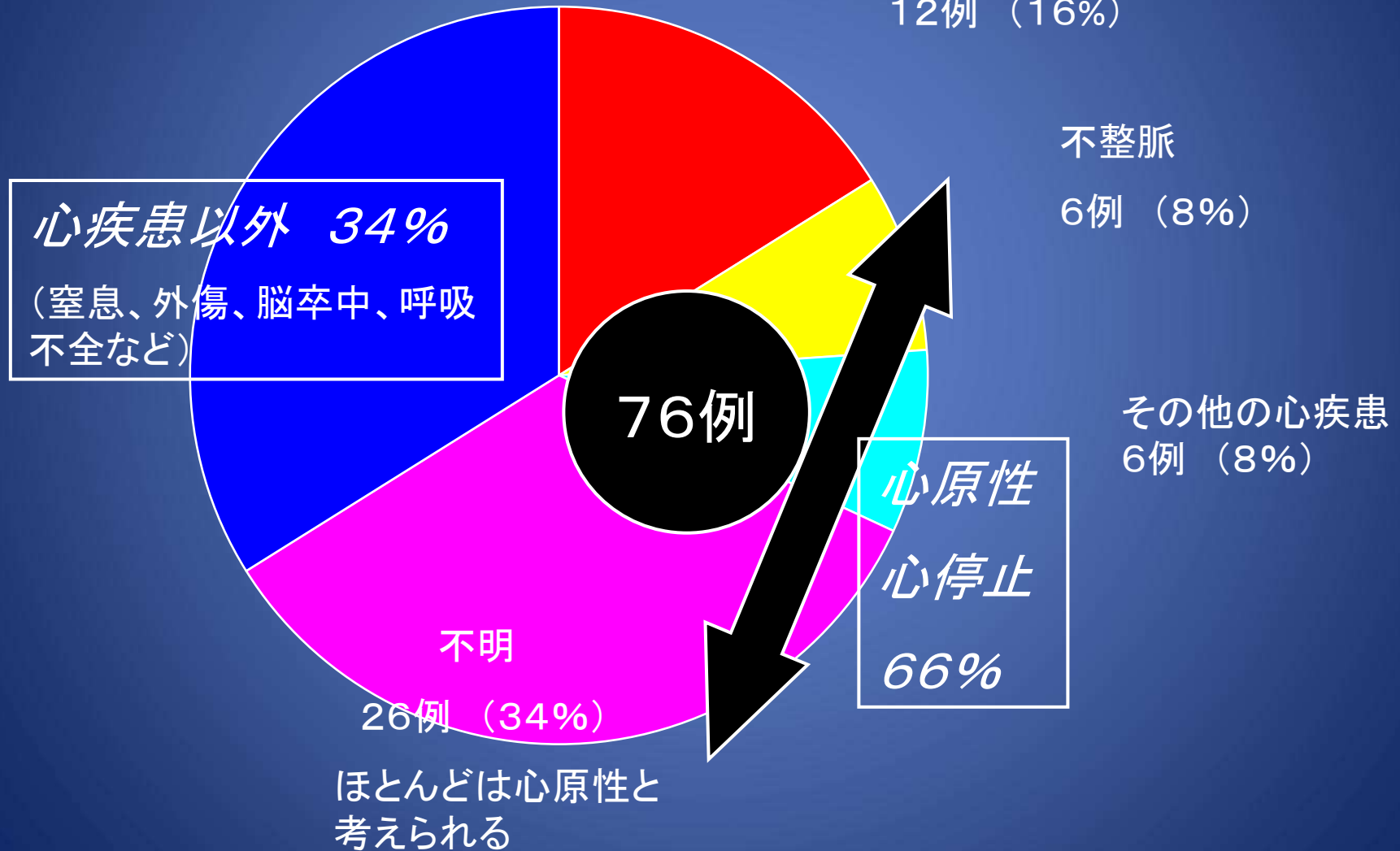
急性心筋梗塞

12例 (16%)

不整脈

6例 (8%)

その他の心疾患
6例 (8%)



突然死の人が病院に着いた後どうなったか？

岩国市圏内の場合
生存退院3－4%

極めて低い！！

米国シアトルの場合
生存退院30－40%

極めて高い！！



この違いはなぜか？

119番通報の遅れ→通報までに平均6.5分
隣人による心肺蘇生の開始の遅れ、やり方も不十分
→蘇生開始までに平均8分
除細動器の使用率が低い

一ヶ月生存率の比較

	岩国	全国
	2002-08年	2005-08年
突然死全体の生存率	3.9%	?
心臓が原因で目撃例の生存率	2.4%	9.1%
心臓が原因で目撃例の割合	29%	18%
心臓が原因で市民の心肺蘇生あり	9.5%	9.1%
市民のAED使用あり	0	1%
(2009-10年で1例ずつ除細動成功)		
市民のAED使用例の生存率	100%?	41%

岩国圏では、心肺停止が多く目撃され、心肺蘇生も行われている。
しかしAEDの使用も含めた蘇生法の実施、その質、開始、通報までの時間のロス等が問題

医師会病院救急センターの現状

- 開業医内科系35名、外科系16名で平日19-23時と、日曜・祝日の手伝い。
- 平日23時～本院当直医1名で対応（医師18名）
- 土日・祝日は山口大学から応援医師4名（内科系2名・外科系2名）の予定だが・・・。
- 年間10000人の救急を診察

医師会病院医師数(2011.3現在)

内科	7
外科	4
整形外科	3
小児科	1
麻酔科	2
放射線科	1 →0
リハビリ	2 →1

合計18名

岩国医療センターの現状

- 年間26000人の救急診療(午後～)
- 医師数82名(研修医を除く)だが、循環器科内科は一般内科当直しないなどで人員が制限されている。
- 眼科などここでしか救急は受けられないが医師数は少ない。
- 軽症患者が多い。
- 対策として4月から選定療養費を5250円に。

岩国医療センター医師数 (2011.4.1現在)

内科	5 →4	呼吸器科	1 →2
消化器科	5 →6	小児科	7
循環器科	12→11	放射線科	3
精神科	1	皮膚科	1
腎臓内科	1	耳鼻咽喉科	3
外科	10→11	心血管外科	5 →3
形成外科	3	小児外科	1
整形外科	4	泌尿器科	4
脳外科	7	産婦人科	3
呼吸器外科	3	眼科	3 →2

合計82→80人(矢印は3月からの変化)

重体患者より「先に診ろ」...院内暴力が深刻化

- 「何で俺を先に診察せんのや」。先月初旬、ある病院の救急処置室。路上で倒れ、救急車で運ばれてきた男が声を荒らげ、男性医師に突っかかった。病院には当時、心肺停止状態の別の患者がおり、その処置を優先したことに激高した。
- 「早く処置をしろと言って胸ぐらをつかんだり、備品を蹴ったりするのは日常茶飯事」「看護師の首を絞め、殺すぞとすごむ患者までいる」……。複数の病院の担当者がそんな現場の現状を明かす。ある病院が職員約100人を対象に院内で調査したところ、4割が「患者から、身体的暴力を受けた」との結果が出た。

転倒予防のためのフラミンゴ療法



開眼片脚起立

左右1回ずつ



60秒

1日2回

訓練方法

開眼片脚立ち
大腿四頭筋訓練
2ヶ月継続

1分間/1回

5秒間/20回

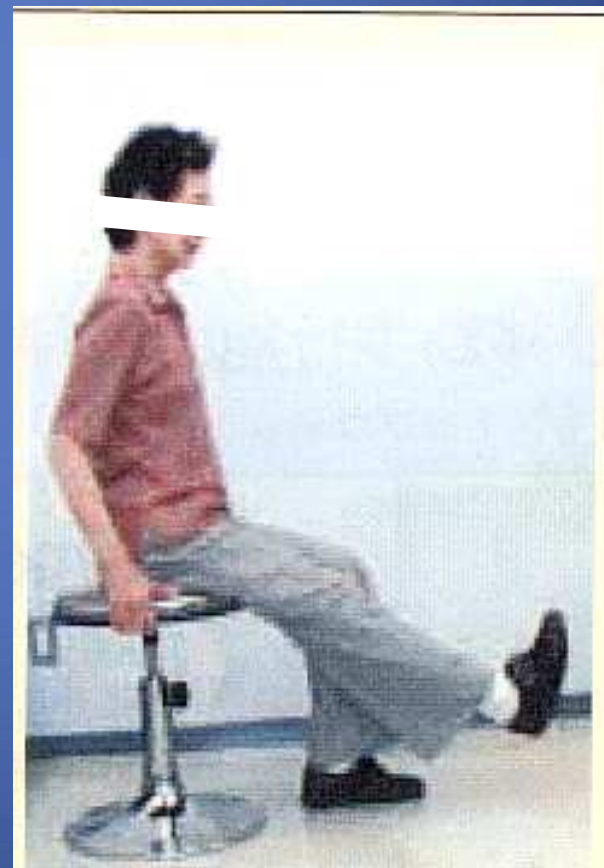
3回/日

2セット

①片脚立ち訓練



②足の筋力増強運動



＝貯筋のテーマ＝（線路は続くよどこまでものメロディ）

みんなで伸ばそう 健康寿命

使えばなくなる お金の貯金

使って貯めよう 筋肉貯筋

老後に備えて 貯金と貯筋